新　生

東北新生園入所者自治会

新生第七十一巻第一号

平成三十一年三月十日印刷
平成三十一年三月二十日発行

新生

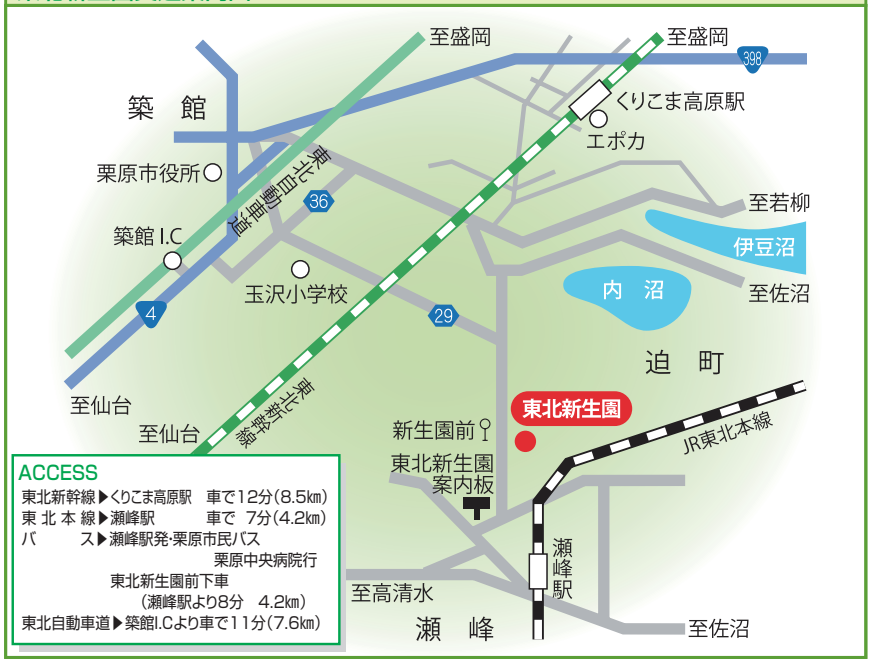
平成三十一年三月十日印刷
平成三十一年三月二十日発行

第七十一巻第一号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢１番地
土地面積	３５１,２９１㎡
建物延面積	２５,２８０㎡
開園	昭和１４年１０月２７日
医療法承認病床	２４４床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男２２名　女３７名　計５９名
職員定員数	１５０名（平成３０年４月１日現在）
園長	医学博士　横田　隆

東北新生園交通案内図



宮城ハンセン協会招待

SENDAI光のページェント見学バス旅行

― 平成30年12月18日 ―

車窓からの
イルミネーション
（仙台市定禅寺通り）

仙台を一望できるレストラン
で食事をしました

園内日誌

平成三十年　十月～十二月

《十　月》

十六日　山形県人会里帰り旅行
十八日　水沢学苑看護学校施設見学
二十六日　秋季バス旅行（定義山方面）
三十日　秋田県羽後町有志慰問
三十一日　将来構想を進める会

《十一月》

一日　第十七回パネル展
二日　第十七回パネル展・屋台祭り
九日　宮城県慰問
十四日　新田中学校交流会
十九日　富山県人慰問

《十二月》

三日　クリスマスイルミネーション点灯式
十日　仙台高裁・地裁施設見学
十八日　SENDAI光のページェント見学バス旅行
（宮城県ハンセン協会招待）

【謝寄贈図書欄】

平成三十年十月～十二月（敬称略）

楓　岡山県　邑久光明園
多磨東京都　多磨全生園
高原群馬県　栗生楽泉園
菊池野熊本県　菊池恵楓園
愛生岡山県　長島愛生園
青松香川県　大島青松園
姶良野鹿児島県　星塚敬愛園

平成31年3月10日　印　刷
平成31年3月20日　発　行

発　　行　東北新生園楓会（自治会）
編　　集　楓　会　文　化　部
印　　刷　川内印刷株式会社

〒989－4601
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一
東　北　新　生　園　電話 0228 (38) 2121㈹
発　行　所　東北新生園入所者自治会　電話 0228 (38) 3600

新生・第七十一巻第一号……目次

表紙…「東北新生園と栗駒山」

年頭のあいさつ……楓会会長…久保瑛二…(2)
セゴビアの話……園長…横田隆…(4)
振り返って……庶務班長…木村高幸…(9)
定年退職を迎えて……調理師長…岩渕薫…(12)
思い出……看護師…小野寺美樹…(13)
振り返って……准看護師…小堀久美子…(15)
退職にあたって　感謝……准看護師…佐々木みき子…(17)

═ 新生文芸 ═

詩……選者…佐々木洋一…(20)
短歌……選者…皆川二郎…(22)
俳句……選者…山田桃晃…(24)
川柳……選者…雫石隆子…(26)
思い出……介護長…脇坂まき子…(28)
万年の春……介護長…千葉早苗…(30)
定年退職を迎えて……看護助手…菅原盛雄…(33)
ありがとうございました……看護助手…椙目市子…(35)
四コマ漫画……北村小蝶…(36)
園内日誌・謝寄贈図書

年頭の挨拶

楓会会長　久　保　瑛　二

明けましておめでとうございます。平成最後の新年の幕開けとなり、いささか戸惑いを覚えての新年の挨拶になりました。

平素は多くの方に当自治会の運営に対しまして、ことのほかご支援とご厚情にあたり入所者を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

さて、今年当新生園は、迎えて八十周年の年にあたり、何かと気忙しい年になりそうな予感を覚えております。

入所者の減少も六十人を割り、平均年齢も八十七・八歳になりました。いわば、超高齢者の集団になり先の道筋が見えて参りました。私たちは、平成十二年に過去の歴史を踏まえて、当新生園の来たるべき将来構想を練りに練って作成し、今日に至っております。

三十五万平方の形態も変化を遂げ、本質的に暗い過去のややもすれば鼻つまみのように見られた施設も、将来の青写真が暗い過去を背負った悲しい時代とも離れ、ここへ来て新たな歴史の創造をまさぐっております。

今年は新たな節目の年です。今年こそすべてにおいて更なる運動の原点を、又ハンセンの歴史を創造し作り上げたいと願っております。

したがって、今後におかれましても各関係者の方々におかれましても、本年も何卒格別のご支援、ご高配を賜りますようお願い申し上げるとともに、皆々様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ年頭の挨拶と致します。

セゴビアの話

園長　横田　隆

アンドレス・セゴビアは二十世紀を代表するクラシックギターの名手で、私は子供の頃から太陽のように尊敬しておりました（写真①）。音楽の神様が何世紀かに一度、地球に使わすことがあるとすれば、それがスペイン人であり、ギターをその伴侶に選んだ・・というのは誠に幸福としか言えません。初めて買ったＬＰレコード、「ソルとタレガ集」の「アルハンブラの想い出」を聴いたときの衝撃は・・今でもはっきり覚えています。繊細な、細かい糸を紡ぐような音質で、幻想的な雰囲気を醸していたものでした。レコードを何度もすり切れるほど聴き、演奏者はどのようなお方なのか・・・小学生の頃に思いをはせていました。

写真①　ギターの巨匠アンドレス・セゴビア

若い頃に京都府立医大に勤務することがあり、そこで外科医としての指導を受け、学位取得などをしたのですが、そこの同門会誌にセゴビアの話をちょっと書いたことがありました。編集のお手伝いをしており、原稿がなかなか集まらず、苦慮していたところで、私の拙文もページ稼ぎになると考えたのです。学生の頃に何十年ぶりにセゴビアさんは来日し、チケットがなかなか取れず、北海道まで聴きに行き、セゴビアさんからサインをもらった・・という思い出を書いたのでした。サインをもらうのも苦労しました。何カ所ものバリアをかいくぐり、ついに楽屋にたどり着き、巨匠からサインをいただいたのでした（写真②）。

京都府立の同門会誌が発行されてからしばらくして、医局に初老のお方が訪ねてこられました。「横田君というのはいるかね・・」同門で開業しておられる大先輩でした。

私はその当時大抵は暇で、医局で留守番のようなことをしていたので、私ですと答えると、「君、セゴビア好きなのかね？」と。

いや、自分もセゴビアのファンなんだよ、同門会誌を読んで同じような人間がいるのか・・っと思って、何十年も京都府立の医局には来なかったが・・久しぶりに来てみたんだ・・・・とのことでした。何でも書いてみるものだと思った次第でした。昭和三十四年のセゴビアさんの来日の折（写真③）、その先生は京都の医師会館にセゴビアを招致し、

写真②
セゴビアのサイン。昭和５５年頃、札幌で開催されたコンサートに行き、楽屋で書いてもらった。
写真①の左下のサインも同じようだ。

医師会館の会場で弾いてもらったとのことでした。その先生の目の前で演奏することになり、大変迫力があったとのこと・・・メンデルスゾーンのカンツォネッタが絶品だったとのことで、「横田君、セゴビアの指には金髪

写真③　昭和３４年来日したときに知人が羽田空港で撮影した貴重な写真。筆者が譲り受けた。左がセゴビアで、右は日本のクラシックギターの草分けの一人である阿部保夫氏（石巻市出身）と思われる。

の毛が生えているんだよ！」と言う臨場感ある報告も私は大変感動して聞いたものでした。

その先輩はその後、京都府立の医局に手術症例を送り続けて下さいました。大変ありがたいことでした。

今上陛下がセゴビアさんのファンであることはあまり知られていません。昭和三十四年来日の公演に皇太子時代の今上陛下はおいでになり、アンコールが終わるまでお席を立たず、護衛の方が大変困ったとの記録が残っています。

その後、昭和五十年代にも来日し、今上陛下の要請で皇居でセゴビアさんは演奏したことがありました。その時、「ソルかタレガの曲を弾いてほしい」と天皇陛下から要請があったそうです。私が初めて買ったレコードを陛下も買われていたのか・・と思わせるこ

とで実に興味深いことでした。その時、陛下は特に「アルハンブラの想い出」を弾いてほしいと言われたとのことでした。ところがその当時のセゴビアさんはかなりの高齢で、指の速い動きの「アルハンブラの想い出」は困難だったのか、他の「アラビア風奇想曲」でごまかしてしまった・・とのことでした。陛下もがっかりされたのではないかとその当時の記録を読んでそう思ったものでした。

五年前に当園に行幸啓があり、天皇皇后両陛下が入所者を訪ねて下さいました。事前の計画で、ご休憩所にバックグランドミュージックを流そうと私は考えていましたが、これはセゴビアが陛下の御前で弾かなかった曲、「アルハンブラの想い出」を流すしかないだろうと結論づけたわけです（写真④）。陛下にその時に聴くことが出来なかった楽曲をご提供しよう・・これぞ究極の持てなしではな

写真④　ご休憩室で流すお手製音楽CD。５分に一度は「アルハンブラの想い出」が流れるように工夫されている。しかし、ついに使われることはなかった。

いかと考えたわけです。

が・・・それは実現出来ませんでした。

なかなか難しい・・・色々な制約がある中でのおもてなしだったので、私は大変無念だと思っております。

セゴビアの初来日は昭和四年です。当園の入所者でもその時の音楽会を聴いたことはないでしょう。セゴビアさんは当時、三十代、さぞ活力があり、迫ってくる演奏をしたのだろうと思って、過去を思い描いておりました。古書店にその当時のプログラムを見つけ、驚愕した思いをいだき、即購入しました（写真⑤）。価格は・・・おそらくよい食事・・フレンチとかイタリアンとか・・その程度の額だと思います。

セゴビアの生演奏は今は聴くすべもなくただただ想像するだけですが、プログラムを自宅の部屋に飾っているとその時のセゴビアトーンが聞こえてくるような気がする・・・そのような想いでいるところです。

写真⑤
昭和４年、セゴビア初来日のコンサートのプログラム。
マニア垂涎のレアもので、からくも競り落としに成功した。

振り返って

庶務班長　木村髙幸

この度、今年の三月三十一日をもって定年退職する事となります。

思い起こせば、昭和五十七年四月に新規採用となり、退職に至るまで三十七年間の歳月が過ぎようとしています。

在職してきた施設を思い起こしますと、国立療養所東京病院を始めに国立王子病院（のちに立川病院との統廃合により廃止）、国立大蔵病院（のちに国立小児病院との統廃合により廃止）、国立療養所松丘保養園、国立療養所青森病院（旧青森病院：岩木病院との統廃合により廃止）、国立療養所青森病院（新青森病院）、独立行政法人国立病院機構岩手病院、独立行政法人国立病院機構山形病院、独立行政法人国立病院機構青森病院、独立行政法人国立病院機構岩手病院、国立療養所東北新生園と十一施設を勤務させて頂きました。

採用頃の新人時代、周りの方々には多大なる配慮を頂き大変感謝しております。中には、その当時の方々とは今でも交流が続いてる方もいらっしゃいます。

最初に、この東北の地に足を踏み入れましたのは、平成七年四月一日付けの国立療養所松丘保養園の転任となります。

青森の地は、自然環境はとても良い所で、夏はとても過ごしやすい所ですが、本州最北の地でもあるため、冬はとても寒く雪深い豪雪地帯でもありました。始めは、冬の雪に戸惑いながらも春が待ち遠しい気持ちで、仕事に励んでいたものです。

しかし、人の適応能力とは素晴らしいものであり、あれほど大変であった冬もその後は、それほど苦にはならなくなってきたものです。四季折々の楽しみを感じ過ごし方を考えれば、

充実した日々が送れるようになりました。
国立療養所松丘保養園を後にし、次の施設である（旧）国立療養所青森病院においては、統廃合計画による新病院への引継、新旧病院の統廃合を経験しました。
その後、受入施設の（新）国立療養所青森病院へ異動となり、平成十六年度の独立行政法人化後は、一回目の独立行政法人国立病院機構岩手病院への配置換えとなり、初めての単身赴任生活となったのもその頃でありました。当時、子供達も小さいため、赴任地から約三百kmありました自宅へ、毎週雨が降ろうが雪が降ろうが、車を飛ばし帰っていた事を思い出します。
平成十九年には、独立行政法人国立病院機構山形病院への昇任となり、しばらくぶりの医事勤務となりましたが、医事算定業務は、全て委託されており実際の伝票入力作業は無く、安堵したものです。二年程で自宅から通勤可能である独立行政法人国立病院機構青森病院へ配置換えとなり、五年半ぶりの単身赴任から解放されほっと一息でした。
その後、平成二十四年四月に二回目の独立行政法人国立病院機構岩手病院へ配置換えとなった時は、思わず「またですか？」と発したものです。
岩手病院からの異動時には、前回と今回で、二度の送別会をして頂き大変感謝しております。
平成二十六年十月には国立療養所東北新生園への異動となりました。
転任間もない頃に、自治会長からのパークゴルフのお誘いを受け、会長・楓会職員・前副園長・理学療法士・福祉等とのプレーをした事が、今でも楽しい思い出となっています。
私の東北新生園での月々に於ける関連業務としては、新年度始めの採用等の辞令交付・新規採用者研修、六月の近隣五十チームを集

めての高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会、春の定期健康診断・春の防災訓練、七月の花火大会・夏祭り、九月の寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会又毎年恒例の新田中学校との交流会、十月の胃がん検診・秋の防災訓練、十一月のインフルエンザ予防接種・秋の定期健康診断、十二月の年末行事、一月の新年の行事、三月の年度末行事等々。
様々な関連業務に精一杯取組み又参加してきました。
日常業務において、他部門との密接な連携が必要であり、それを実践していく事が大変重要な事柄だと考えながら、行ってきたところです。
結果、特段大きな失敗もなくこられましたのは、園長を始めとする関係職員の皆様、並びに自治会長を始めとする入所者の皆様のご協力があったからこそだと思っております。
施設の運営は、単体個人の働きではなく、一つの共同体としての働きが、如何に大切であり重要な事であるかを自覚し、微力ではありますが業務を行ってきたつもりであります。
後に残ります職員の皆様におかれましても、一致協力し、東北新生園の理念である「入所者の人権を尊重し、安心で安全な医療を提供します」を忘れずに業務に取組んで頂きたいと思います。
私のこれからは、以前と比べ一段落はしますが、今後も常に明確なビジョンを持ち、何事にも積極的で前向きな姿勢を保ちながら、様々な事柄に取り組んで行きたいと思います。
最後になりますが、入所者の皆様、並びに職員の皆様には健康に留意され、健やかにお過ごしされますよう、心から願っております。
大変お世話になり有り難うございました。

定年退職を迎えて

調理師長　岩　渕　　薫

この度、三月三十一日をもちまして定年を迎えることとなりました。

昭和五十四年に賃金の洗濯手として入職し二年後の五十六年に調理師として採用していただいてから、早三十九年という月日が経っていることに驚きを感じます。

自宅も近く、私の父も新生園の給食で働いておりましたので、当園で仕事すると決まった時、家族みんなで喜びあったのが昨日のことのようです。

思い起こせば、私が調理師として働いてから、給食棟が三回引っ越しをしました。それぞれの厨房でいろいろ思い出がありますが、一番印象に残っているのは、厨房設備がオール電化になったことです。今まで使っていた蒸気やガスと違い、初めて電磁調理器で調理することになった時、とても緊張したことが忘れられません。

今では笑い話ですが、当時は毎日が緊張の連続でした。

また、私が入職したときに思いもしなかったことがあります。それは私が新生園最後の調理師長だということです。自分の後を引き継ぐ後輩がいないのはとても残念ですが、仕方がありません。

最後になりますが、長きにわたり無事に勤めることができましたのも、入所者の皆様の温かい励ましの言葉、職場の皆様、家族の支えがあってのことと感謝の念に堪えません。

大変お世話になりました。皆様のご健康を心から願いまして、退職のご挨拶といたします。

思　い　出

看護師　小野寺　美　樹

この度、定年退職を迎えることになりました。平成十四年十月に夜間センター設立にあたり、看護師の増員により四十歳半ばで採用していただきました。その時、新生誌に載せる原稿の依頼があり書いた事を覚えています。

あれから早いもので十六年が過ぎ、定年退職の原稿を書かせていただきます。

思い出は数え切れないほどあります。特にカラオケ大会です。病棟に配属になり、一年目を過ぎた頃、先輩の方々から新人は順番にカラオケ大会に参加して歌うんだよと言われ、もう一人の人を誘いデュエットで参加させていただくことになりました。何日か練習して、いざ本番、舞台に上がる前から足は震え、心臓はドクドク、ちゃんと歌えたのかも覚えていません。

病棟勤務を経て不自由者棟の高砂・泉センターに移動になり、夜間センターで夜勤をするようになりました。

まず各センターの地図を書き、入所者の方の名前を書いたノートを持ち歩いて覚えるまで大変苦労しました。夜間センターは山鳩センターの中にありました。山鳩センターの明峰・西明峰は建物が同じで巡廻は楽でしたが、北斗・泉・高砂は建物が離れていて、外に一回出てからセンターの中に入るという巡廻でした。コールとは違うセンターに間違って行った事もありました。眠れない入所者の方の手を握り眠るまで側についていた事もありました。

始め二人でしていた巡廻も慣れた頃、先輩看護師に別々に巡廻しましょう、その方が早いからと言われ、真夜中の外を歩く不安と心細さは今でも覚えています。

第一メープルケアセンターである入所者の方に皮切りが出来ないとだめだ、俺の足を使って切ってみろ、練習しろ、出血したって大丈夫だからと処置台に足をトンと置いて下さいました。何度か切らせていただきました。

本当に嬉しくありがたかったので、十六年経っても良い思い出になっています。

入所者の皆様に励まされ今までこられたと思います。本当に心から感謝申し上げます。

入所者の皆様、職員の皆様、お身体を大切にお過ごし下さい。大変お世話になりました。ありがとうございました。

振り返って

准看護師　小　堀　久美子

今年の二月で定年退職を迎える事になりました。昨年の四月には、あと一年で退職かと思いながら、まだ十二ヶ月もあると言う思いもありましたが、新年を迎え、あっという間に過ぎた九ヶ月を思うと「あと三ヶ月はすぐだろうな」という気持ちと同時に、退職が間近なのだと自覚し始めている今日この頃です。東北新生園に就職して、十六年六ヶ月での退職となります。

夜間看護センターを開設するにあたり、看護師を募集している事を広報で知り、ハンセン病の看護に対する知識もないまま、試験を受けさせて頂きました。試験、面接等は数十年振りで、面接では何を聞かれて何と答えたのか覚えていませんが、三名の面接官の方々に、廊下まで聞こえる様な声で笑われた事だけ記憶しております。

その時、試験を受けた中で私が最年長であり、筆記試験では自信を持てる様な解答もできず、面接では失態をさらしてしまいましたが、自宅に戻って間もなく、電話があり「採用する事になりました」との声を聞く事ができ、十四年十月一日から勤務し、病棟に配属されました。私が採用された時、入居者の方は二百名いらっしゃるとお聞きしました。

その頃は色々と行事があり、カラオケ大会や運動会、文化祭等に参加させて頂きました。緊張しすぎて最後まで顔を上げる事も、前を見る事も出来なかったカラオケ大会、急に指名され訳がわからないまま参加した運動会、園外旅行で定義山に行った事など懐かしく思い出されます。

病棟で二年勤務し、その後、山鳩センターに移動になりました。不自由者棟は入居者様

にとって、生活の場だからと言う話をされましたが、どの様に関わり、対応をすれば良いのか戸惑いました。

そんな時、初心者と言う事もあり、入居者様には色々と親切にご指導して頂きました。一番大変だったのがベンチ切除でした。先輩には「見て考えているだけじゃなく、数をこなさないと覚えないから、進んでやらせて貰いなさい」と言われ、いざ、やらせて頂くと、手が震え、なかなか思う様にできませんでした。そんな時も「俺の手足で、練習しろ。少し位、血が出てもいいから。」と励まして頂きましたが、本当に申し訳ないという思いでした。

一日一日が長く感じるのに、十六年という月日はあっという間に過ぎた様な感じがします。

平屋だった不自由者棟も、三階建ての新しいセンターになり、当初は一階から三階まで看護師二名で対応していた事もありましたが現在は各階に配属され、すぐに対応できる様な体制になりました。

そんな中で体調を崩した時期もあり、短期間ではありますが、十六年間お世話になった中で、八回も入院する様な事があり、スタッフの皆様には、大変ご迷惑をお掛けし、自分自身もこのまま続けられるのか、続けて良いのか迷った時期もありましたが、上司の御配慮と同僚の御協力のお蔭で、最後まで働き通す事が出来たと思っております。

最後になりましたが、多くの不手際や対応に対する不満も多々あったのではないかと思いますが、親切に御指導し、受け入れて頂いた入居者様には、心より感謝し、今後も元気でお過ごし頂ける事を切に願っております。

そして、スタッフの皆々様には色々と助けられ支えて頂き、定年退職を迎える事が出来たと感謝しております。

皆様も健康に留意し、お過ごし下さい。

本当にありがとうございました。

退職にあたって　感謝

准看護師　佐々木　みき子

早いもので三月に退職を迎える事になりました。まだまだ先の事と思っていました。ほんとうにまだ実感がわきません。

私は平成十七年の四月に採用となり、一十四年間皆様にお世話になりました。園の広大な敷地にビックリしたのを昨日の様に思います。

初めての配置場所は山鳩センターで、右も左もわからない私は、皆様の名前を覚えるのに必死でした。また、全盲の利用者さんへの接し方、処置の仕方等苦戦しましたが、早く慣れる様にと先輩方の指導、時には思いのお叱りをしてくれた事が、こんにちの自分の成長につながったと思っております。

この十四年間に、山鳩センター・第一メープル・第二メープル・病棟と配置換えがあり、入所者皆さんと接する事が出来ました。

出会い・別れ・いっぱいの思い出が頭に浮かびます。

ある入所者さんに「東京の看護婦さん」（笑）と、言う呼ばれ方をして、廊下でお会いすると「いつ東京から帰って来たのっしや」と、言われ「〇〇さんに会う為に新幹線でとんで来たのですよ」（笑）などと冗談を交えて、優しく声を掛けて頂き、心がなごみ・癒され・仕事に来る励みにもなりました。感謝です。

また、定年退職まで九ケ月と言う時に、事故を起こしてしまい、皆様には迷惑やらご心配を掛けてしまいました。身体が思う様にいかず、働く自信を無くした頃に、ある入所者さんに「痛い所はないのか」「もっと働いてけろや」と、優しい言葉を掛けて頂き“ありがたい頑張らなければ”と、思う気持ちにさせて頂きました。感謝です。

「言葉は心ですね」「言葉は魔力ですね」
“私自身が皆様にそう言う気持ちで接してあげなければいけないのに”と、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。
縁あって新生園で働く事になり、縁あって皆さんと出会う事が出来、様々な経験をさせて頂き、本当に「感謝・感謝」の一言です。
優しく接して頂いた事、心に刻み一生忘れません。

入所者の皆様これからも御身体を
大切にお過ごし下さい。
ほんとうにお世話になりました。
ありがとうございました。

新田中学校
交 流 演 奏 会
平成30年11月14日

新生文芸

詩

佐々木　洋　一選

手を借りて
看護師さんに
トイレに行く
これからの生活
思い煩う

足の痛みは
少しうすれて
どうやら行ける
トイレまで
これは大変大仕事

目を覚まし
二時ばかり
うたた寝をする
大分時間も
経っている

夜明けの空を
覗いたところ

◇入　選◇

《元日の朝》

今野　きよし

除夜の鐘
うつろうつろと聞いて
ぐっすりと
四時すぎに
目が覚めた

晒の雲が
南の空に
色もうすれて
かすかに残る

東の空に
初日見たいと
願ったけれど
雲が張り出し
朝焼け雲が
ほんのり赤い
空となる
初日の出
晒の雲を従え
輝いた

【選　評】

《元日の朝》　今野　きよし

厳しい日常生活の中であっても、元日の朝には特別に期待するものがあります。作者のふつふつとした息づかいが伝わってくる、生への明けの作品です。

短歌

皆川二郎選

◇入選◇

今野きよし

出産の間近き介護士健やかなれわがことのごと指折り数う

【選評】　日々世話になっている介護士さんも、ときには家族のごとく感じられるのでしょう。出産の間近い介護士を思う作者の優しさが感じられる一首です。評者にとっても母子ともに健やかに元気な子が誕生することを祈らざるにはいられない。今回の作品の中に「宝の声の産声届く」という一首がありましたので安心しました。

今野きよし

ベランダに昨夜の雪の白く積み朝日の照りて部屋の明るし

【選評】　まだまだ厳しい冬が続いている、わがみちのくですが、白く積もったベランダの雪に朝日が差し込み、部屋の中が明るく感じられるという情景は、好まない雪であってもすがすがしく感じられる感性に喜びを覚えます。

今野きよし

介護員の眼鏡の奥の円らなるまなこ優しく挨拶交わす

【選評】　日々の生活の中で、世話になっている介護員との関係が想像できる一首であり、眼鏡の奥の円らなまなこの介護員とお互いに優しく挨拶を交わす情景が見えるようです。限られた空間であればなおさら人間性の豊かさが生活を充実させるのだと思います。皆様の日々の生活を心から応援します。

◇佳作◇

今野きよし

夜の明けて雪野が原と化しており電線白く重く撓える

隠れ家のごとく奥まる病室に輸血を受けて一夜泊まれり

めしいなる妻の心情思いつつ話したきこと自然に選ぶ

俳句

山田桃晃選

◇入　選◇

父と子の意見一致の返り花　　今野　きよし

【選　評】　小春日和のころ草木が時節はずれに咲く花が返り花。桜・山吹・蒲公英などが多い。
さてどんな花に意見が一致したのでしょうか。父子の楽しい会話が続くわびしくさびしい趣の花。

元日や恋心ふと思い出す　　園　永　泊

【選　評】　若き頃の思い出は多々あり、ことに恋しいあの人の面影は事あるごとに胸に眼うらに、元日の思い出はいかに、あらたまって雑煮餅をば、まずは一献楽しみながら。

初日の出一際眩し病む窓に　　斎藤　照雄

【選　評】　病む窓にと言うからにはさほど重くはない、むしろ長い療養の窓から見る初日の出の輝き、言葉にならない躍動があり新年の眩しい喜び生きる喜びを授かった船出を思う。

◇佳　作◇

塩鮭がぶら下がる事もない療養所　　園　永　泊
早番のナースの言葉初日の出
屠蘇酌むやナースのおしゃべり口車
雑草や踏まれながらの緑濃く　　今野　きよし
己が来た逃げて行くのか山笑う
見せられし小枝は幼稚返り花
補聴器を取りに戻るや金木犀
ユーモアの和の広まりてフリージア　　斎藤　照雄
北帰行らしき軍団寮の空
春風に試歩の杖とやリズムカル
茶摘み唄歌って故郷を偲びけり

川柳

雫石隆子選

◇入選◇

《人位》

師匠逝きて心にぽっかり穴開きて　長沼蓮花

【選評】今回、桃生小富士さんの作品が見えないので、心配をしてました。心臓を患っていたようでしたが、もう一度お会いしたかったです。今でも、あの少年のような魂を持った小富士さんとの出会いが思い出されます。私の心もぽっかり穴の開く思いです。

《地位》

潔い桜とやらが羨ましい　斎藤照雄

【選評】パッと咲いてパッと散る桜。その有り様が潔いと言われる。人生も、この様で有りたいと願う人もいるが、なかなか思うようにならないのが人生。笑って泣いて、悩み苦しむのが人生かもしれません。

《天位》

腐るほどしゃべり抜いてる平和論　桜山南仙

【選評】昭和人は大戦を経験し、多くの犠牲を払って日本の再生を見てきた。平和の貴さ、有り難さを語り抜いてきた私達。「腐るほど」の比喩に平和への思いの深さがある。五月には新元号となるが、戦争の悲惨さを、平和の貴さを語り継がねばと思う。

◇佳作◇

高台の清水を汲んで初風呂に
補装具に遊ばれ過ごす三ヶ日
初風呂のバブルバスの夢心地　今野きよし

判決に目尻泣いたり笑ったり
君が代を待っているのは土俵です
影法師いつか別れる日を見つめ　桜山南仙

初詣どの足音もリズミカル
八氏病か歌い疲れた日は祈り
あの空に何処かに私の幸せが　斎藤照雄

四季終わり色紙彩り小富士咲く
写真より絵の具の色紙温かい
お帰りと帰る故郷母の声
雪解けの畑に白鳥春を待つ　千歩

がけっぷち気持ちは前に出てるのに
振袖の娘に父の照れ笑い
幸せを掴むは自分の心次第　長沼蓮花

思い出

介護長　脇坂　まき子

私はこの三月で定年退職を迎えようとしています。

昭和五十五年十月末に高砂寮に産休代替としてお世話になり、それから福祉室勤務、介護助手となり、最後の仕事が介護長になり、自分でも信じられず、入所者様職員の皆様に協力を得て、毎日勤務を続ける事が出来ました。改めて日々の仕事の大切さ、人との関わりの大切さを身をもって知りました。

東北新生園の事は何も知らず、嫁に来てお産をし「そろそろ働いたら」と、姑に促され面接を受けました。落ちてがっかりしてた所を産休代替にお世話頂き、高砂寮に勤務しました「家庭と同じだから」と、言われましたが、なかなかどうして先輩方は厳しく、私も若かったので失敗ばかりしておりました。雨戸も開閉出来ずからかわれ、雪が降れば雪ダルマを作ってくれたり、お酒の話し相手など楽しい事もありました。昼休みは先輩方に編み物まで教えてもらいました。

その後、福祉の包帯再生に採用され、その当時自分の伯母達に「国立にお世話になったんだから辞めずに頑張れ」と、言われ、自分なりだけど十分頑張って来たつもりです。

全部が始めてで、草取り・障子張り・雪かき・風呂掃除・包帯ガーゼの再生、鹿沼・南陽・松島・蔵王と付添い旅行もあり、始めてのカラオケ・一回も入らないゲートボール・運動会と楽しい事もあり、始めて見る大きな野菜・菊花や盆栽びっくりしました。楓会事務所の方々には、丁寧な仕事の仕方を教えて頂きました。

それから介護助手になり、始めて勤務したのは泉寮でした。今は亡き牧様に泉寮の事を教えて頂き「頑張んなさい」と、声をかけて頂きました。有り難い反面とても不安でした。

掃除の仕方・補食の作り方・縫い物など色々先輩方に教えて頂き大変だけど、どれもこれも良い勉強になりました。

また、不自由な方の代筆・代読を何回かし盲人の方に手で漢字を教わり、不自由でも何でも出来る方もいて感銘を受けました。

また、平成十七年には介護員研修で、長島愛生園に行かせて頂き、入所者様に“研修なんかサボって、俺達と歌聞きに行こう”と、とても良い笑顔で声をかけられたのが、研修の内容より今となっては心に残っています。

自分も六十歳を過ぎて入所者様も高齢になり、大変な時もありますが「ありがとう」と笑顔で答えられると何だかとてもホッとして暖かい気持ちになってきます。

楽しい事もあり、色々な経験もさせて頂き感謝しております。どうぞこれからもお元気で楽しく過ごして下さい。長い間お世話になりありがとうございました。

万年の春

介護長　千葉早苗

あれはいつの頃だったのか、私の記憶の片隅のぼんやりとした場面。

小さな田舎の小さな駅。錆びた線路。大勢の人、人、人。

それぞれが手に持つ日の丸の旗。ザワザワとした中に「御召列車」「万歳」「ありがたい」などと聞こえる。

しばらく待つと、巨大な鉄のかたまりがゆっくりと私達に風を吹きつけてガタンゴトンと通り過ぎて行く。

「天皇陛下万歳」大人達が声を上げ、バサバサと日の丸の旗を大きくふり上げる。

これは何なのだろう…

そんな場面も思いも年月が過ぎていく間に、ほとんど忘れてしまっていたが、数十年後、私が新生園に入職してから、その記憶が呼び起こされることになる。

最初は高松宮殿下が訪問された時、殿下が当時入所者の間で流行し始めた、ゲートボールの始球式をされたのだ。

そのことが、どれだけの喜びとなったのかはその後何年も語り継がれたことからも知ることができる。

「宮様が来て下さることは本当にすごいことなんだぞ。あんた達は一生に一度、会えるかどうかの方なんだぞ。ありがたいことだぞ」と自治会役員の方から語りかけられ、ふと、何故かあのぼんやりとして場面を思い出したのだ。

以前より皇族方が訪問されていたのだが、私も何度か携わることがあり、その中で記憶に残っているのが、ヒゲの殿下の愛称で親しまれた三笠宮殿下からお声掛けされた時のことだった。移動されている途中急に私の方に

近づき「〇〇はどこかな」〇〇はおそらく宮言葉だったので「はい？」と聞き返してしまうと「ああ、△△はどこ」と民間人に分かる言葉で聞き直され、案内すると「ありがとう」と片手を上げて微笑されたのである。

また、妃殿下も同行された年もあり、この時は忘れられない思い出となってしまった出来事があった。

三笠宮殿下同妃殿下が本館にお着きになった時とご休憩の時に、コーヒーと紅茶をご用意する役目があり、分刻みのスケジュールを皆が緊張しながら遂行していた。両殿下がご使用されたカップを下げて洗っていた同僚が、落として割ってしまい、一同固まってしまったのだ。彼女は青ざめ、震えながら「ああ、どうしよう」と泣きそうになっていたのだが、この日使用するカップを選ぶために、もう一客用意していたことが分かり、すぐ対応できたのだが結局、ご休憩はされなかった為この出来事は何事も無かったように、スケジュールは進んでいったのである。

ある年には妃殿下がご友人である外国の大使夫人とお二人で、ピアノコンサートを開催された。その時は、大使夫人がピアノを弾く前と後に、おしぼりをお渡しする役目であった。青い瞳の大使夫人に〝Ｔｈａｎｋｙｏｕ〟と言葉を掛けられ、ふわふわと、どこをどう歩いて戻ったのか、何という曲を弾いて下さったのか、今でも思い出せない。

これまで何十年もの間、皇族の皆様から、入所者の方々にお心を寄せて頂いたことは、きっと貞明皇后のこの言葉から始まっているのだと思う。

つれづれの友となりても慰めよ
　ゆくこと難き　われにかはりて

そして平成二十六年七月二十二日の行幸啓、この日も私は入所者の付添いとして天皇、皇后両陛下とお会いする機会を与えられた。しかも、思いもかけず皇后陛下よりお声掛けされたのである。何とかお答えした後に「一生のうちに会えるかどうかの方なんだぞ。ありがたいことだぞ。」の言葉がよみがえってきた。

お帰りの御車を見送る時、私の記憶の片隅から「天皇陛下万歳」の声と日の丸の旗の中を、菊の御紋が入った列車と御車が重なって、ゆっくりと動き出して行った。

帝室は獨り万年の春にして
人民これを仰げば
悠然として
和気を催す可し

定年退職を迎えて

看護助手　菅原盛雄

この度、新生誌の原稿依頼を受けて書き始めるとたくさんの事が思い出されます。

私は昭和五十二年七月に分館（福祉室）に自動車運転手として採用になり、配飯車で給食棟より不自由者棟各センターと一般寮を回り配飯、また園内のごみ回収、バキュームカー、官用車の運転、草刈り、不自由者棟の大掃除、引越しの手伝い、グラウンドの整地、ジープでの除雪、水源地の給水管・貯水槽の掃除、U字溝入れ、土留めなど、作業返還（入所者の皆さんの作業を職員が担う）による採用のため入所者の方に指導して頂きました。

旧売店前に埋まっている水道管が吹き出し夜遅くまでの作業、バキュームカーの操作を間違い売店から下着を購入し、ボイラー室でシャワーを浴びたことなど今となっては良き思い出です。

昭和五十六年九月に栗駒寮、楓寮、戸伊摩寮、松風寮、北斗寮の五棟八十名位の栗駒センターへ看護助手として配置換えになり、先輩から食堂テーブルへの盛り付け、食器、飯器の洗い方、居室の箒を使う掃き出し、障子張り、入浴介助など教えて頂きました。

入所者、職員方の名前を覚えるという大変な事や、木造の建物なので寮内に猫や蛇などが入ってきて追い出した思い出などがあります。山鳩センターでは煮付、魚焼き、果物の皮むきなど、食べやすいように切り、入所者の方に合う味付けの捕食作り、短歌、俳句、川柳、手紙などの代筆や代読、漢字が分からず、入所者の方に教えられながらの読み書き、洗濯物の畳み方は先輩方に何度も聞き行いました。

泉センターでは朝の目玉焼き、二つのホットプレートで十個以上の卵を焼くので温度を上げればブレーカーが落ちたり、柔らかめや固め焼きの方もいるので失敗の連続でした。
入所者の皆様、スタッフの皆様、お身体大切にお過ごし下さい。長い間お世話様でした。

ありがとうございました

看護助手　椙　目　市　子

ご縁があり短い間でしたが東北新生園で働かせて頂くことができました。
戸惑う事が多く、慌て者で不器用なことも手伝い、入所者様、職員の皆様に大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。申し訳なく思っております。
しかし、いつも皆様に助けられながら働くことができ、心から感謝しております。ありがとうございました。
入所者の皆様は文学的な方々や、色々なことに長けている方々が多く驚かされました。
たまたま“ハンセン病”という病になっただけで差別され、辛い思いをしながら人生を歩んでこられたことは私には計りしれません。
そこで働く職員の皆様より、入所者様の気持ちに寄り添う丁寧な対応を教えられました。
東北新生園でご指導頂いたこと、学んだことを大切に、これからも自分なりにヨタヨタでも生きていきたいと思います。
入所者の皆様の心身の痛みが少しでも和らぎますように。そして職員の皆様の更なるご活躍をお祈り致します。
大変お世話になりました。ありがとうございました。

4コマまんが

眠り猫

北村小蝶

東北新生園イルミネーション点灯式

平成30年12月3日